現場加工も可能なテーパーネジ

横方向の施工

すべての人が働きやすい街に

森ビルは、2013年夏に社内組織「女性が働きやすい街づくり検討会」を発足させた。営業本部オフィス事業部営業推進部企画グループの岩根奈美担当課長と宮地紋子さんが中心となり、これまで働く母親が交流を図る「ワーキングマザーイベント」のほか、オフィステナント向けメールマガジンでのアンケート、オフィス共用部トイレ改修などに取り組んでいる。最終的には「すべての人がより働きやすいオフィス環境、街になることがゴール」（岩根さん）だ。

森ビル 営業本部オフィス事業部営業推進部企画グループ

担当課長 岩根 奈美さん

宮地 紋子さん

DIVERSITY 働きかた

岩根さんは02年に中途入社し、六本木ヒルズ開業準備室、メディア企画部を経て12年にオフィス事業部に異動した。7歳児の母親でもある。

検討会の発足に当たっては、今後も複数の大規模ビル開発が計画され、そこで働く女性も増えることが予想される中、「女性に選ばれる、女性が働きやすいオフィスが、競争力強化につながるという仮説をたてた」とした上で、「そういうオフィスを増やすことで日本経済に貢献できるという社会的意義もある」と語る。

現在、検討会のメンバーは女性8人。

オフィスだけで[illegible]広げるため、[illegible]加している。[illegible]意識も変わって[illegible]続く世代には「ワ[illegible]を知ってもらう[illegible]同立できるとエ[illegible]

05年入社の宮[illegible]計部から異動。[illegible]でもあり、こと[illegible]ら復帰した。

1回目の育休[illegible]は立ち上げから[illegible]「今まで出会わ[illegible]の"ママ友"がで[illegible]

[illegible]

子どもに働く背中を見せたい

建設業界に特化した技術系人材派遣・紹介サービスを展開するエヌ・アンド・シー（本社・東京都港区、長田健社長）は、建設・不動産業界関係者が選ぶ「ゼネコンランキング調査」を発表した。建設・不動産業界の魅力では、「専門知識を生かせる」との回答が最も多く、全体の39・5%を占め、「人の暮らしを良くできる」が38・5%、「人の暮らしを支えられる」が29・9%と続いた。

調査は、全国の20歳以上の業界関係者2000人を対象に実施。業界の魅力を職種別に見ると、土木では「地図に残るような仕事ができる」（42・0%）、プラント・エンジニアリングでは「チームワークでつくりあげる仕事ができる」（48・8%）が最多だった。

「専門知識生かせる」が魅力

エヌ・アンド・シー

建設・不動産業2000人に調査

建設業界で働く女性に関する項目では、「3年前に比べ、建設現場が、女性も働きやすいようになってきていると思う」が男性46・7%、女性39・8%、「今後、建設業界の女性社員は増えると思う」が男性57・9%、女性49・8%、「今後、建設業界の女性管理職は増えると思う」が男性50・4%、女性40・4%となった。いずれの項目も男性の方が肯定的にとらえている様子がうかがえる結果となり、女性の同意率も低くはなく、特に、女性社員の増加については半数が同意を示した。

現場がもっと働きやすくなるために必要なことでは、「週休2日の浸透」が男女ともにトップで、女性は3人に1人が「現場に女性目線に取り入れる」との回答だった。

CIC日本建設情報センターが解説する

施工管理技士の受験対策 ③

さあ学習を始めよう…でも方法は？

学科試験の傾向について前回お伝えした。それでは、具体的にどのような勉強をすればよいのだろうか。簡単である、過去問が解けるようになるまで繰り返し勉強すれば良いのだ。特に施工管理技士の学科試験は過去の類似問題が多く、合格するためには過去問を解くことが絶対条件だ。また、試験本番において力を発揮するためにも試験問題を数多く解くことが不可欠である。

従い、仮に10年分の過去問題を繰り返し解くことができればおそらく合格することは可能であろう。

講習会では合格点を取るための効率的な講義を実践している

しかし、科目によっては900前後の問題を解かなくてはならず、膨大な学習時間を要する。学生のように学習に専念できる環境があれば、それでも問題ないだろう。しかし、施工管理技士試験の受験生の多くは社会人である。帰宅後や休日に受験勉強を行うことになるがその時間を確保するのは容易ではない。

そこで、学習時間短縮の一翼を担うのが講習会である。受験対策とは合格点に達するための勉強であり、高得点を取ることではない。広範囲にわたる網羅的な学習は単に時間の無駄でしかない。合格点を獲得することを目的とした出題可能性が高い論点と試験直前の学習術を提供するのが講習会である。

学科試験における過去問の重要性の高さからCICの講習会では、テキストと過去問のリンクを念頭に置いた講義を実践している。通常であれば別々に学習するテキストと過去問題。この性質の異なる教材を同時並行に解説することで受講中に学んだ知識が実際の試験でどのように出題されるかを認識でき、その場での知識の定着と復習時間の削減が期待できる。また、試験本番までに最低限解いてもらいたい出題頻度の高い過去問を選定し配付している。

独学でも合格は可能だ。しかし、時間も大きな費用である。せっかくの学習時間を効果的に利用するために一度、プロが短期で合格するために組み立てた講習会に参加することも考えてはいいのではないだろうか。

（CIC日本建設情報センター　鮎川　洋介）

「時間も費用」社会人には効果的な学習が不可欠

平成27年4月14日
建設通信新聞